



春は桜、初夏の新緑、秋は紅葉と人吉の四季を楽しめる「梅花の渡し」。4～10月はラフティングも開催



人気メニューの九州パンケーキ900円。宮崎県高岡町のはちみつと高千穂発酵バターを使用したシンプルなおいしさ

おみやげも Check!



パンケーキミックス540円。九州産バター・ミルクパウダーを使用



ブラッドオレンジと桃のコンフィチュール1190円

HASSENBA HITOYOSHI KUMAGAWA

●はっせんばひとよしくまがわ
☎0966-22-5555 (球磨川くんだり)
人吉市 MAP P12E1

◎人吉市下新町333-1 ◎九州自動車道人吉ICから車で10分 ◎球磨川くんだり清流コース3500円 ◎9～17時 ◎水曜 ◎40台



球磨川くだりは江戸時代に木材や物資を運ぶ舟運として始まったのがルーツ



カフェやショップを併設し、2階ではバーも営業予定。人吉観光の新たな拠点としてにぎわいを生み出している



球磨川くんだり株式会社
ゼネラルマネージャー
藤山 和彦さん

球磨川くだりと人吉の未来をひらく観光拠点

球磨川沿いに立つHASSENBAは、球磨川くだりの発着拠点で、カフェやショップも併設する複合施設。モダンな空間づくりが印象的だが、その背景には「令和2年7月豪雨」からの歩みがある。

話を聞いたのは、20代で球磨川くだりの世界に入り、26年にわたって川と向き合ってきた藤山さん。人吉出身の藤山さんは、知人に勧められて初めて球磨川くだりの船に乗ったことをきっかけに、この道へ入ったという。櫂を握り、先輩たちに鍛えられるなかで、気づけば26年。先輩たちが引退し、いつしか自らがその歴史と技を受け継ぐ立場になった。

大きな転機となった「令和2年7月豪雨」では、施設が1階の床上約1.2mまで浸水し、船も流失。甚大な被害を受けた。社員も徐々に離職し、藤山さん一人が残った。

藤山さんが一貫して守っているのが「復興で人吉を盛り上げる」こと以上に「球磨川くだりを後世に残す」ことの大切さ。球磨川くだりの歴史は100年以上。もとは木材や農産物を運ぶ舟運として使われていた船を、鉄道開通後に観光へ生かしたのが始まりだ。その長い歴史を、自分の代で途切れさせたくない。補助金や多くの協力者の力を得て再建を進め、水害から1年で現在の「HASSENBA」が形になった。今は球磨川くだりのほか、ラフティングやサイクリングなども展開。スタッフは7人に増え、若い世代も加わった。

「球磨川にはこれまで多くの恩恵を受けてきたが、暴れ川」という別名があるように、人の力だけで抑え込めるものではない。恐れながらも向き合い続けるしかない。そう語る藤山さんは「ずっと先に、若い船頭がお客さんを乗せて川を下る風景が見られたらうれしいですね」と続ける。球磨川くだりという文化を未来へ手渡すこと。その静かで強い想いを話してくれた。

球磨川と生きる町のいま 水害からの復興物語

球磨川とともに歴史を重ねてきた人吉の町。「令和2年7月豪雨」という大きな試練を乗り越え、単なる復旧ではなく「創造的復興」を掲げながら、再び歩みを進めている。観光の現場で活躍し続ける人々に、その想いを聞きました。



大女将
有村 政代さん

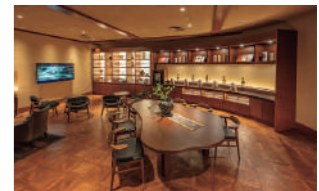
人吉温泉 あゆの里

●ひとよしおんせん あゆのさと
☎0966-22-2171 (人吉市) MAP P12E1
◎人吉市九日町30 ◎九州自動車道人吉ICから車で5分 ◎1泊2食付3万5200円～ ◎IN15時/OUT10時 ◎80台

創業者が掘り当てた「鮎里源泉」が注ぐ。人吉温泉はとろりとした炭酸水素塩泉で「美人の湯」として知られる



7階「天空のテラス」は球磨川を一望できる絶景スポット



1階ロビー奥の「球磨焼酎ラウンジ」。球磨焼酎のおすすめの銘柄を自由に楽しめる



球磨川とともに歩む 人吉温泉の名宿

「令和2年7月豪雨」で、老舗旅館「あゆの里」も大きな被害を受けた。1階と地下は濁流と泥にのみ込まれ、多くの設備や資料が失われたが、大女将の有村さんが最優先にしたのは「お客様の命」。早朝に危険を察知して宿に駆けつけ、約100名の宿泊客の安全確保に奔走。「ただ命を守ることだけを考えていました」と振り返る。

約1年後、単なる復旧ではなく「創造的復興」として営業を再開。和モダンを基調とした空間に、露天風呂付き客室や「天空のテラス」を整備し、より心地よい滞在を叶える宿へと生まれ変わった。館内には庭で育てた季節の花が美しく生けられ、客室やロビーにはインドネシア・バリ島のエッセンスを取り入れたしつらえを施し、訪れる人の心をやさしくほぐしてくれる。

「球磨川は災害をもたらした川でもあるけれど、やっぱりこの町の宝。川とともに生きてきた町だからこそ、みんなで結束し未来へ進んでいけたらと願っています」と有村さんは話す。

現在、人吉では球磨川を軸に地域の魅力や歴史、自然をつなぐ「リバーミュージアム」構想が進んでいる。「人吉温泉女将の会」の会長も務める有村さんは、地域の宿と協力しながら、球磨川のほとりにあったかな灯をともしている。

地下1階のギャラリーでは水害当時の様子を伝える写真を展示



「スパスイート・パノラマビュー」の客室。自家源泉露天風呂を備えた贅沢な空間